



鈴木友三郎 (すずき ともさぶろう)
明治24年(1891)～昭和60年(1985) 享年94才

金工 金具師。金具師の父である友七のもとで修業し、酒田張りのキセル製作法を教わった。入隊中、病院に所属し医療メスの鍛金を学ぶ。除隊後キセル、指輪などを製作し、酒田の名工と謳われた。



加藤千晴 (かとう ちはる)
明治37年(1904)～昭和26年(1951) 享年47才

詩人。本名は平治。京都大学の事務局に勤務し、そのかたわら詩作に励んだが病で失明する。その後も詩作、論文手記の執筆に没頭。晩年は兄の丈策、一人娘の千草が口述筆記し、没後、孫の千晶が遺稿集を出版した。



杵屋勝寿恵 (きねや かつすゑ)
明治38年(1905)～平成6年(1994) 享年89才

長唄師匠。本名池田スエ。小学校に通いながら三味線の手ほどきを受け、また他の芸事も習得する。その後芸妓として活躍するが杵屋勝東治に師事して長唄の名取りとなり、師匠に専念。数多くの芸妓の指導にあたった。



岡部敏也 (おかべ としや)
大正9年(1920)～昭和20年(1945) 享年26才

画家。酒田商業から東京美術学校日本画科(東京芸大)に進み、在学中日本画院に入選3回、かたわら、洋画研究所で洋画も学び、文展にも入選し、将来を嘱望されたが、終戦直後満州にて、ソ連軍との戦闘で戦死。

おもな展示資料

■山木 武夫	賞状 ステッキ 胸像写真額 写真	個人蔵 " " "
■渋谷 勇夫	胸像 賞状 碁石	個人蔵 " "
■荻原 重逸	著書本 綴方研究(人) 書(軸装) 書(軸装)	個人蔵 " " "
■佐藤 常太郎	書(軸装) 般若心経 修証義自書本 棟札	個人蔵 " "
■齋藤 英明	日本画(軸装) 色紙 筆架 筆 落款印	個人蔵 " 酒田南高等学校蔵 " "
■西田 祐太郎	厚生大臣、長官表彰記録 西田商廬懇親之記 顕微鏡	個人蔵 " "
■鈴木 友三郎	金工用型 香炉 鐺(金象嵌名友則) 鉤鼻 工具、製品	個人蔵 " " "
■加藤 千晴	軍吉人形(手造り土人形) 油絵 文芸雑誌 著書本(生原稿製本) スケッチブック	個人蔵 " " 光丘文庫蔵 "
■杵屋 勝寿恵	三味線撥 歌扇録(長唄合本) 見台	個人蔵 " "
■岡部 敏也	齋藤別当実盛出陣の図(軸装) 夏休の研究 油絵(自画像) 水彩画(農婦十態) 落款印	個人蔵 " " " "

● 第118回企画展示 ●

《第7回》

酒田の人物史料展

—— 地域社会の発展、文化の向上に尽くした人々 ——



岡部敏也と作品(齋藤別当実盛出陣の図)昭和12年写す。

開催期日 / 平成13年11月29日(木)～平成14年2月17日(日)

開館時間 / 午前9時～午後4時30分

休館日 / 月曜日(月曜日祝祭日のときは翌日)
12月29日(土)～1月3日(木)

入館料 / 大人100円、児童・生徒50円
(65歳以上の方と身体障害者の方は無料です)

酒田市立資料館

酒田市一番町8-16 TEL(0234)24-6544
FAX(0234)24-6544

開催にあたって

「酒田の人物資料展」は、今まで6回開催し122人の方々を紹介してまいりました。

今回の第7回人物資料展においては10人の方を取り上げ、その業績等を紹介します。

これらの方々は地域社会の発展や文化の向上に務め、また、それぞれの分野でのリーダーとして活躍するとともに、後継者の育成にも務めてきた方々です。

それぞれの時代の中で、人生の中で、何を考えどんな生き方をしてきたのかなど、先人の歩んできた道を知ることが私たちのこれからの生き方に大きな示唆を与えてくれるものと思います。

荻原家親子三代の歌を収録した「歌集むさし野」に重逸氏が次のような歌を載せています。

「吹き払ひ ふき浄めても ちりほこり
逆まく道を我は行くなり」

ここに紹介するいずれの方々も、こんな道を歩んできたのでしょう。

展示にあたりましては、ご遺族の方々をはじめ、多くの関係者から貴重な資料をご提供いただきましたことに、厚く御礼申し上げます。

酒田の人物資料展・プログラム

- | | |
|---------------------------------|-----|
| ① 明治の青年群像(1880年代に生まれた人々) | 17人 |
| ② 郷土史を彩る人々(明治以前) | 25人 |
| ③ 地域社会の近代化に尽くした人々(1) | 18人 |
| ④ 地域社会の近代化に尽くした人々(2)
(明治～昭和) | 16人 |
| ⑤ 地方自治に尽くした人々 | 30人 |
| ⑥ 文化史を彩る人々(明治～平成) | 16人 |
| ⑦ 地域社会の発展、文化向上に尽くした人々 | 10人 |

展示者のプロフィール



山木 武夫 (やまき たけお)

明治26年(1893)～昭和58年(1983) 享年90才

農業。農村問題の研究者加藤完治に師事し、産業組合運動に取り組んで、落野目信用組合を創設した。さらに産業組合を発展させて農業倉庫の建設に尽力。我が国の農業協同組合の基盤を確立した功労者である。



渋谷 勇夫 (しぶや ゆうふ)

明治30年(1897)～昭和60年(1985) 享年88才

農業。加藤完治の教えを受け、北平田村に信用販売購買利用組合を設立して組合長となり、盟友の山木武夫と共に山居倉庫に対抗して農業倉庫を建設した。産業組合運動の中心的役割を果たす。



荻原 重逸 (おぎわら じゅういちろう)

明治11年(1878)～昭和32年(1957) 享年79才

教育者 歌人。各地の学校の教頭、校長を長く勤め、教育界に重きをなした。信念の人、公正な人格の持ち主として知られ、書道、英語を得意とし、特に本草学に詳しくだった。晩年は選挙管理委員長などを務めた。



佐藤 常太郎 (さとう つねたろう)

明治22年(1889)～昭和47年(1972) 享年83才

書道家。小学校の校長を勤めたあと、光丘文庫、酒田市史編さん室で古文書の解読に活躍。書家山口半峰に師事し、愛竹(あいちく)と号して長く子弟の書の指導にあたった。



齋藤 英明 (さいとう えいめい)

明治26年(1893)～昭和60年(1985) 享年91才

教育者 林昌寺住職。各地の住職を歴任、昭和14年(1939)酒田林昌寺の住職となる。酒田南高校、東北短大、酒田保育専門学校を創設して、私学振興に尽力した。書画にも親しみ、馨泉(けいせん)と号した。



西田 祐太郎 (にしだ ゆうたろう)

明治31年(1898)～昭和46年(1971) 享年73才

西田薬局経営。酒田市の調停委員、保護司会長、人権擁護委員、青少年補導センター運営委員会長などの要職を歴任し、酒田の人権擁護に尽力。また、切手のコレクターであり、切手の収集の指導にあたった。